

「冬期間における感染拡大防止に向けて（案）」等に対する主な意見

1 有識者・専門家の意見

1-①

道案に異論なし。
感染予防対策に少し気のゆるみが生じているように感じる。長期間と
なっているのでは仕方がないかもしれないが、今一度、きちんとした感染
予防を道民に訴えていただきたい。

1-②

年末年始を経て、沖縄、山口、広島はもちろん、東京、大阪でも感染
者が急増しており、北海道でも時間の問題と思われる。これまでに言わ
れているように重症化割合が低いとしても、今後若い人から高齢者に感
染が広がること、陽性者数自体が増えれば重症者も増えてくることから、
医療機関連携体制と病床の確保、宿泊療養施設の確保、自宅・宿泊療養
者の効率的かつ適切な健康管理システムの運用とともに、感染の広がり
を抑えるための積極的疫学調査実施のための人員の確保、特に重症化リ
スクが高い方やそのような方に接する方、社会インフラに関わる職種
の方を中心とした方に迅速なワクチン接種が望まれる。
また、陽性にならなくても濃厚接触者にあたるために仕事ができない
医療従事者や社会インフラを支える方々の増員がタイムリーにできるよ
う、モニタリングと連携を進めていただきたい。

1-③

道案に異論なし。
オミクロン株の感染拡大防止のためにも、道民への強力な注意喚起が
必要と考える。

1-④

オミクロン株による感染事例の確認や新規患者数の増加傾向を踏ま
え、「冬期間における感染拡大防止に向けて」対策を強化することは必
要と考える。
国の方針変更を踏まえ、オミクロン株の感染者及び濃厚接触者に対す
る対応の見直しを行うことについては、特に感染者について
は病状の急変に的確に対応できる体制を整えていただきたい。
また、オミクロン株による軽症や無症状の感染者による感染拡大を防
ぐためには、検査を受けられる機会を確保が重要であることから、より身近
なところで検査を受けられるよう無料検査事業者の配置拡大を速やかに
進めてほしい。

1-⑤

全体として異論はないが、総評の「今後の対策」の3つ目の○、オミ
クロン株に罹患した患者の取り扱いのところで、宿泊、自宅療養におい
ては訪問診療や往診などの体制を確保していただきたい。
冬休みが終り学校での感染拡大や家庭内感染の増加が懸念される。
とりわけ、感染力の強いオミクロン株のまん延に対応できるよう、学
校・家庭・行政との連携や対処方針について確認・共有しておく必要
があると考える。

1-⑥

道案に異論なし。
ただし、本日の感染者数を拝見すると、まん延防止等重点措置を早急に準備した方が良いかと思われる。

1-⑦

無料検査所の拡大にしっかり取り組んでいただきたい。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

全国では、オミクロン株によると思われる新規感染者が増加している状況である。北海道においても、オミクロン株の感染者が確認されており、今後、感染拡大が想定されることから、三次医療圏ごとに設置している宿泊療養施設の早期再開について、お願いしたい。

2-②

新型コロナウイルス感染症と共存した経済活動再開のためには、他県でのまん延防止等重点措置の適用や道内でのオミクロン株の感染確認を踏まえた取組を1日でも早急に行うことに賛成。
道内全域への「無料検査事業所」の拡大と、PCR検査の道民への強力な呼びかけを期待する。

2-③

集団感染の発生状況の表の区分について、十勝では「遊技施設」でクラスターが発生しており、「飲食店等」を例えば「飲食店」と「飲食店以外」とするなど、細分化したほうが実態を理解しやすく、今後の対策を検討する上でも参考になるのではないかと。

2-④

日常生活での感染防止対策の基本は、手洗いやマスクの着用、「密」を避けることなどであり、これまでと変わることはない。道庁からは道民に対し、冷静かつ効果的な対応の呼びかけが重要であり、実効性ある行動を促す、効果的な情報提供をお願いしたい。
また、過去、クラスターが発生してきた医療機関、高齢者施設などに向けても感染防止対策、「ゼロ密」の徹底を呼びかけていただきたい。
ワクチン接種についても、オミクロン株により、道民の関心が高まっているのが好機であり、1人でも多くの道民が接種するよう、具体的な行動に結びつく対応をいただくとともに、3回目のワクチン接種についても、加速させていけるよう進めていただきたい。
道民、道、自治体など、それぞれの対応が有機的に効果を発揮し、マイナス影響を最小限にとどめられるよう、考え得る対策を総動員して、スピード感を持って対応されることを期待している。